

## ナガゴマフカミキリ

澄川の基地周りでしばしば見かける小型のカミキリムシがいます。すごく地味で樹皮にまぎれる体色をしていますので、虫に興味のない人には見えないでしょう。和名をナガゴマフカミキリといいます。体長 12～20 ミリ。分布は日本全土。食性は広葉樹なら何でも来いの偏食なしで、澄川の基地周りは食べつくせない食料の宝庫になっているので、この虫にとっては天国なのです。出現時期は 5～7 月とされています。この期間に雌雄が出あって繁殖行動をし、終わると 8 月には姿を消すでしょう。



2012 年 7 月 28 日の澄川作業日は熱中症にもなろうかと思われる暑い日でした。土曜日でロンドンオリンピックの開会式やダルビッシュが先発する試合のテレビ放映があるにもかかわらず、澄川には 12 名もの仲間が参加しました。家でテレビを観ているよりは森づくりの汗を流す方が好きという面々です。作業は基地まわりの整理でそれぞれが気になっている仕事を分担しました。



われわれが手をつける前のこの基地まわりは、2004 年 9 月の台風でギンドロの大木十数本が折り重なって倒れた惨憺たる状況でした。ほぼ 10 年がかりでぼちぼちと整理してきたわけですが、ギンドロの整理伐の材の放置状況がみつともないので、窪地に集積するとともに



広場の面積を拡張したいので、伐根を引き抜く作業を始めましたが、何しろ 30℃を越す猛暑の中、ちょっと鍬をふるっただけで玉の汗が噴出します。そんな中紅一点の佐野さんが鍬をふるって奮闘しますので、ジジイどもも怠けているわけにもゆかず、結局は 1 株を引き抜いてしまいました。熱射病に罹る者もなく、伊達に齢を重ねてきたわけではない自己管理が出来ていることがよくわかりました。